

始良市衛生協会だより

「みんなの環境学習バスツアー」に市民が参加、 ごみ減量やリサイクル、生ごみ堆肥化などについて学ぶ。

2月25日(土)に「みんなの環境学習バスツアー」を実施しました。これは環境問題に対する理解と関心を深め、積極的に環境保全活動を行う意欲を高めるために行ったもので、17名が参加しました。

まず、あいら清掃センターの視察ではごみが焼却処分される工程を学びました。

また、家庭で取り組めるごみ減量の活動として、リデュース、リサイクル、リユースの3Rについて学びました。

参加者は、施設内を見学すると、間近でごみが焼却される様子から、自分たちの生活から大量のごみが発生していることを実感していました。

ツアー最後の(有)岩掃が運営する生ごみ堆肥化施設では、事業系の動植物性残渣が堆肥にリサイクルされる様子を視察し、処理設備の概要を学んだ後に生ごみが堆肥にリサイクルされる工程を学びました。



【可燃ごみの処理に関する説明を受ける参加者】



【中央制御室での様子】



【可燃ごみに混入した金属や陶磁器などの量に驚く参加者】



【大量に廃棄される事業系の生ごみに驚く参加者】



【堆肥化処理の工程を学ぶ参加者】

次に始良リサイクルセンターでは、ごみを少しでも減らし、再資源化するために始良市で取り組んでいる資源物の分別収集について学びました。



【資源物の分別方法を再確認する参加者】



【中間処理の工程を学ぶ参加者】

◆ 参加者の感想 ◆

- ・まだまだ、ごみを減らす努力をしていないと反省させられた。
- ・分別の方法やその理由が楽しく理解できたので、市民全体が参加できればと思った。
- ・家庭から出るごみを最小限にするために買い物も考えて行く。マイバックも必要である。
- ・買うときに本当に必要なものか再度考えることが大切だと感じた。
- ・自治会や仲間同士の集いの中で広めていきたいと思った。
- ・一人一人が正しい分別の知識と高い意識を持てば、もっと環境に優しいまちになると感じた。



協会理事29名が参加。廃棄物処理の現場を学ぶ。

1月30日、協会の理事がエコパークかごしまと廃棄物の堆肥化に関わりのある施設を視察し、研修を行いました。

まず、エコパークかごしまでは、鹿児島県内の産業廃棄物が埋め立てられる様子を確認しました。

エコパークかごしまは、薩摩川内市にある産業廃棄物の管理型最終処分場で、埋立容量は60万立方メートルです。

参加した理事らは施設概要の説明を受けた後“どれくらいの年数で埋め立てができなくなるのか”“建設費用や維持費用はどのくらいか”など積極的に質問などを行いました。

次に、日置市にあるユーキ発酵では、浄化槽汚泥や野菜くずなどが堆肥化される様子を確認しました。

運び込まれた汚泥は水分調整を行った後、空気を送り込み好気性のバクテリアなどによって発酵され、堆肥として利用するそうです。

また、製材所から出る木材の樹皮なども細かく粉砕して、パーク堆肥として製造しているとのことでした。

最後は、(有)岩掃が運営する生ごみ堆肥化施設で事業系の動植物性残渣が堆肥にリサイクルされる様子を視察しました。



【屋根つきの大規模な埋立施設を視察する理事】



【堆肥の用途などを熱心に学ぶ理事】



【堆肥化施設の概要を学ぶ理事】



“生ごみの減量化”のためのリーダー養成] 受講者に修了証書を授与。今後に期待。



【受講者の皆さん】



【閉講式で修了証書を受ける受講者】

3月6日、始良公民館において、「“生ごみの減量化”のためのリーダー養成」の閉講式がありました。これは、あいらEM自然の里が平成28年度の各種環境改善活動団体事業補助金を利用し、ごみ減量活動の裾野を広げるリーダー的な役割を担える人材育成を目的に行った講座で、21名が全8回の講座に参加しました。

ごみ減量などの環境問題への意識啓発に加え、次世代の環境改善活動を担うリーダーを目指し、さまざまな環境改善につながる活動を実践するとともに、自身の体験や取り組みたい活動などを発表し、新たな地域活動の中心を担うことのできるスキルやノウハウを身につけました。



環境絵画コンクールの優秀作品をパッカー車に掲出。

昨年の夏休みに実施した環境絵画コンクールにおいて、ごみ減量の部・生活環境の部のそれぞれの最優秀賞と優秀賞に選ばれた作品をパッカー車に掲出しました。これは子どもたちがごみ減量や生活環境について自ら考えるとともに、社会へ向けたメッセージとして描いた作品でもありますので、皆さんも見かけた際は素晴らしい作品をご覧になりながら、環境について改めて考えてみてください。



問合せ先 衛生協会事務局

◆市役所本庁 生活環境課 生活環境係 Tel66-3189